

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

| | | | |
|-------|-------------------------------------|--------------------------------|------------------------|
| 課題番号 | 26221003 | 研究期間 | 平成26年度～平成30年度 |
| 研究課題名 | 霊長類の大規模神経回路活動記録・操作法による部分的意識の生成機構の解明 | 研究代表者 (所属・職) (平成29年3月現在) | 伊佐 正（京都大学・大学院医学研究科・教授） |

【平成29年度 研究進捗評価結果】

| 評価 | 評価基準 | |
|--|------|---|
| | A+ | 当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる |
| ○ | A | 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる |
| | A- | 当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である |
| | B | 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である |
| | C | 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である |
| (意見等) | | |
| <p>盲視のメカニズムを解析することで、意識に迫ろうとする意欲的な研究である。これまで、当初計画よりは少ないがサルへの全脳型 ECoG 電極の埋め込みと解析技術の確立、ウイルスベクターを用いた盲視における上丘-視床枕-LIP 回路の役割の解明、信号検出理論による盲視ザルの行動解析など、研究基盤はほぼ完成しており、また、それに伴う成果も出ていることから、研究は順調に進んでいる。今後、これらの技術を総合し、明確な研究計画を策定することで、本来の目標である意識生成のメカニズムに迫ることを期待する。</p> | | |